

かさま 社協だより

No.11



編集・発行 2010.3.31

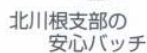
社会福祉法人笠間市社会福祉協議会広報委員会 笠間市美原3-2-11 TEL.0296-77-0730
E-mail info@kasama-syakyo.jp URL http://www.kasama-syakyo.jp/



まゆ玉に願いを込めて まなだけ会（上加賀田地区社協）

も く じ

① 支部社協活動研究集会（友部地区）	2
② 在宅介護者の会研修会	3
③ 社協ってなあに？	4～7
④ 支所だより	8～9
⑤ お知らせ	10



**支部社協
活動研究集会**

去る2月27日、友部公民館において「よりよい活動をめざして」と題し、北川根支部と大原支部の活動報告が行われました。お招きした常磐大学教授の池田幸也先生が、両報告をふりかえりながら「支えあいの場づくり」の大切さについて講演されました。



明るく元気な
地域づくりを目指して

地域づくりをコンセプトにした声掛け運動は、地域小学校の「あいさつ運動」と関連させ、児童生徒が地域づくりに参加する意識の醸成に重点を置き、地域の小中学校と連携して展開している活動と言えます。

受けられる様にした」との話があり「あさひ子どもを守る会」の名称で活動しています。

同運動のワッペン作りの段階では、児童生徒から図案を公募し、地域の各種団体の代表・教職員等に選考してもらい「友二中学区子供を守る会」として、「フリータイムの見守り活動」を続けている事業です。地域づくりにはこの様に児童・生徒も積極的に参加出来る機会を設けることが大切で、将来地域力を高めることに繋がるのではないでしょう

登下校時には、支部内の随所で先に述べました声掛け運動のメンバーが、自主的に見守り活動を実施していますが、小学校から「組織として、県教育委員会に登録し、助成を

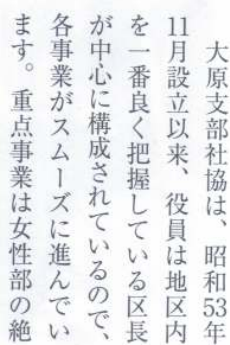


この活動によって小学生はもとより、中学生からも元氣なあいさつが返され、ドライパーも目礼をして通り過ぎる光景に、爽やかさを感じます。

中学校との連携事業として、一年生の調理実習をサポートする活動を展開し「学校の応援団」として、中学生が人と人との輪を広げてくれることを願っています。

バリアフリーの地域づくり

大原支部長 中村 晃



は、昭和53年
役員は地区内
にしている区長
にしている、
に進んでい
は女性部の絶
大な協力に

年齢者が体力と健康の維持増進
を図るには、日頃体を動かす
ことが大切です。

大原地区内にはグラウンド
が一箇所あり、毎日のように
高齢者が元気にグラウンドゴ
ルフを楽しんでいます。

大原地区内にはグラウンドが一箇所あり、毎日のように高齢者が元気にグラウンドゴルフを楽しんでいます。

また、高齢者が社会の流れについていけるようにと、県内施設見学会を平成11年度から実施しています。

今年度は、3月11日開港の茨城空港の見学を、3班に分け124人が参加しました。

心になって
います。高
齢者が体力
を維持増進
し、毎日を
元気に楽し
く過ごして
いただく事
を目的に実
施していま
す。特に高
齢者にとつ
て最適のス
ポーツであ
る輪投大会
は25年続い



「在宅介護者の会」研修会 「男性介護者を支える」

去る2月11日、友部社会福祉会館において「在宅介護者の会」会員約70人が参加し、学習会が開催されました。午前中は講演があり、午後は昼食をとりながら情報交換をしました。

講演会

「男性介護者を支える」
荒川区男性介護者の会
オヤジの会
神達五月雄さん

48歳の神達さんは、現在保険の代理店を経営しながら、母親（要介護度3）と知的障害を持つ弟を自宅介護している。

父親は、すでに亡くなっているが、亡くなる12年ほど前、不幸な事を体験してから精神的バランスを失い、寝込むことが多くなった。だから24時間、ふとんをしいていたという。その当時、母親が父親と弟の面倒を見ていたので神達さんは、保険会社に勤めながら父親の介護に当たっていた。

その間、父親は、どんどん重症化し、神達さんの書類を破ってしまうような奇行をするようになった。対処法を知らなかったのが、父親に手をかける時もたびたびあった。亡くなる前の2年間は、いくつかの疾患もあり、病院に通っていた。最後は自宅で亡くなったという。



講演する神達さん

父親の死後、母親も車いすを使う生活になり、失禁をした後の処理に困った。母親は、自分で洗濯をするのだが、うまくいかず、弟にも洗濯をさせていたので、洗剤をたくさん入れてしまうということが重なった。母親には「自分でするからそのままにしておく

ように」と頼んだということだ。



グループごとに情報交換

料理を作ることに關しては経験があるので、それほど負担は感じてないという。

「荒川区男性介護者の会（通称・オヤジの会）」は、荒川氏を会長に会員13人で、94年に妻や親を介護する男性を中心に発足。定例会での介護の悩みや意見交換のほか、行政や地域の企業や商店、研究者、他の介護者の会などと連携をしながら、様々な情報発信を行っている。

昨年3月、「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」が発足し、初代代表に「荒川区オヤジの会」会長の荒川氏

が就任した。介護者の支援や交流だけでなく、行政への政策提言を目的として活動している。

「荒川区オヤジの会」は、昨年「毎日介護賞」で毎日新聞東京支局長賞を受賞した。最後に、介護者は自分一人ではやろうとしないで、民生委員や社協の方々に手助けを求めていくことが大切であると述べられた。（鶴田）

笠間地区 青山輝雄さんの感想

感動！すばらしい講演でした。祖父のトイレ介助が始まりで、認知症の母親と知的障害の弟の介護。まさに複合介護の典型ですね。お話を伺っている間中涙が止まりませんでした。離職、廃業の苦難にもめげず、ファイナンシャルプランナーの資格を取り、ネット上で相談が受けられる様にするなど男性介護者の鏡を見た思いで、また感涙です。

なあと?

No.5

「社協ってなあに?」のシリーズも今回で5回目です。前号では、会員制有償サービスの「在宅福祉サービス」について掲載しましたが、ご理解いただけましたか。ところで、皆さんは、社協で取り組んでいる「介護保険事業」をご存知でしょうか。また、現在「介護保険」を利用していらっしゃる方がいますか。本号では、「社協の介護保険事業」を紹介し、更に、平成21年4月に見直された「介護保険制度」についても改めてお伝えします。



介護保険事業



社協では4つの介護保険事業を行っています

こんなこともやっているよ!



ゲームで楽しいひとときを過ごす利用者

①訪問介護事業 (友部・笠間・岩間支所)

・要支援、要介護の方に身体介護、生活援助などのサービスを提供しています。

②訪問入浴介護事業 (友部支所)

・要支援、要介護の方に、入浴車によるサービスを提供しています。

③通所介護事業 (デイサービス)

(笠間・友部支所)

・要支援、要介護の方に、通所による機能訓練をしています。

④居宅介護支援事業

(友部・笠間・岩間支所)

・要支援、要介護の方が適切なサービスを利用できるよう計画の作成やサービス提供の調整、助言などを実施しています。



生活支援をするヘルパー

利用家族の声

義母は81歳。2年前前から介護保険を利用し、現在は要介護1の認定である。降圧剤を飲んでいくくらいで、いたって健康体だが、脳の萎縮が始まっている。目の前の対応はとても上手だが、30秒前の話も昔の事も忘れていく。自宅では、草むしりや枯葉拾いなどをしていくが、週4日通うデイサービスでは、ゲームで優勝したり、よく笑い、「あー楽しかったあ」と帰宅する様子は生き生きとして、本当に楽しそうである。その間、嫁の私は、ボランティア活動に専念できる。

義母には、たとえ忘れても一瞬の「楽しい」ことの積み重ねで余生を送って欲しい。

(E・K)





“社協”って

申請からサービス利用まで



要介護認定

申請について

被保険者証を添えて申請書を提出してください。居宅介護支援事業所などに申請を代行してもらうことも可能です。

申請をすると、認定調査の後に公平な審査・判定が行われ、介護や支援が必要な度合い（要介護度）が決まります。

認定調査

笠間市の担当職員などがご自宅を訪問し、心身の状態や日中の生活、家族・居住環境などについて74項目の聞き取り調査を行います。

主治医の意見書

笠間市の依頼により主治医が意見書を作成します。

一次判定

認定調査の結果や、主治医の意見書の一部の項目をコンピュータ入力し、一次判定を行います。

二次判定（認定審査）

一次判定や主治医の意見書などをもとに、保健、医療、福祉の専門家が審査します。

（皆塚・関・小松崎）

ちよつといい話

脳の働き

脳の働きは、青年期を過ぎると体力や筋力と同じように低下するといわれています。

体力や筋力は、運動することによって低下を防ぐことができます。それと同じように脳も使う習慣をつけることによって低下を防止することができるといわれています。

脳の健康を保つためには、健康体であることが基本となりますが、脳を使う習慣を身につけることや十分な睡眠をとること、そして、バランスのとれた食事に心がけることが大切です。

特に次の様な自覚症状がある人は、気をつけていただきたいと思います。

- ①物忘れが多くなってきた
- ②人の名前や漢字がなかなか思い出せない
- ③言いたい言葉がすぐに出ない

以下次号（小野）

推進事業とは？



『地域の困った』!?を地域で解決していきましょう!!

最近、事件が
多くて子どもが
心配・・・



防犯防災活動など

見守り活動など



年齢を重ねる
と今までできて
きたことができな
くなる・・・

ひとり暮らし
だったらもっと
不便だろうな・・・

地域のこと？
知っているよ
うで知らない
かも・・・
退職後の生活
も・・・



広報活動など

『みんなで考えよう
そして みんなで活動しましょう』

住みなれた地域で
安心して暮らせるまちづくり

在宅ケアチーム

ボランティア

老人クラブ

理学作業療法士

民生委員

障害(児)者

ひとり暮らし高齢者など

近隣・協力者

ホームヘルパー

保健師

家族・親族

ケアセンター
コーディネーター

福祉サービスの把握

啓発活動

在宅ケアチーム
の実態調査

在宅ケアチームの調整

だより



地域の住民が住み慣れた地域で生活するため、共に助け合い、支えあっていくことが大切とされています。

岩間支所では、リフレッシェ食事業と節分豆の配布の紹介。友部支所では、東支部福祉推進員の研修会の掲載、笠間支所では、まなだけ会の餅つき体験学習を紹介いたします。



余興に見る参加者

岩間支所

リフレッシュ食事業

一月二十七日、岩間地区内のひとり暮らしの高齢者を対象に福祉センターで開催されました。当日の朝は、雨が降り最悪の条件、それでも参加者は決められた集合場所から、社協のバスで定刻に到着しました。

支所長、ボランティア連絡協議会岩間支部長の挨拶があり、日程説明が行われました。

入浴する方、紙芝居（いわまの昔話）を聞く方、思い思いに楽しんでいる間に、昼食が用意され、ボランティアも席に加わり、楽しい食事となりました。

献立や料理の味付けの良さ、赤飯がおいしく炊けていることなど、話はつきませんでした。食後は、カラオケが始まり、一人一曲たくさんの方が時間一杯歌われ、参加者の皆さんにとって一番楽しい時間となりました。



いわまの昔話の紹介

時間のようでした。

続いてシルバリーハビリ体操で体をほぐした後、南京玉すだれの芸が披露され拍手喝采でした。

最後は全員で童謡を合唱し、ボラ連協からのおみやげを手「四月は花見だね」と

みんなの気持ちで節分豆に込めて

岩間支所では、毎年2月3日の節分の日を迎えるにあたり、ひとり暮らしの高齢者の方々に節分豆とお茶菓子を入れた袋を民生委員さんの協力を得てお届けしています。

この事業は、ある篤志家の方が、社協に節分豆を寄付していただいたことをきっかけに始まりましたが、今は、赤い羽根共同募金の配分金を活用して、実施しています。共同募金は、毎年10月から始まる募金運動で、皆様方から多くの協力をいただいているお金です。言いかえれば、支え合い、助け合いでつくる地域づくりを願う皆様方の善意で

担当地区内の民生児童委員は、ひとり暮らしの方を一軒訪問し、元気で生活をしている様子を目にした時は、きっと安心感につつまれていることでしょう。節分豆とお茶菓子入りの袋の中には、皆様方の暖かな地域づくりを願う気持ちが入っているのだと思います。

（事務局）



笑顔で手を振り帰宅しました。見送るボランティアの方も、参加者に喜んでいただいた事で満足感をいただき、この食事業によって高齢者とボランティアの方との絆が一層深まったことでしょう。

（山田）



説明を聞いている参加者



支所

友部支所

東支部の
研修会に
45人参加

去る2月25日、支部内の福祉推進委員45人が参加し、栃木県足利市にある「こころみ学園」を訪問しました。

一行は予定通り学園に到着し、早速担当者から、施設について説明がありました。概略をまとめると

この施設は知的障害者入所更生施設であり、授産施設ではないこと。従って、作業をしても給料は出ないが、年間10万円位を支給している。

現在の入所者は90人で、平均年齢は51歳である。約半数が高齢の知的障害者である。

ここでは障害者だから出来ないではなく、出来ることをさせてみることを大切にしている。繰り返しによって出来るようになっていく事として、およそ100人分もの洗濯物が、名前が付いているにして、確実に所有者のもとに届けられている等を例に挙げて説

明があり、参加者は感心して聞きっていました。

質疑対応の後、所内を案内された際、元気な挨拶の音が聞こえたり、大きな洗濯機の前で働く人の明るい表情が印象的でした。

こころみ学園の原点は、昭和33年当時、特殊学級の教員だった現園長の川田昇氏と特殊学級の子どもたちが、こうばい38度の急斜面3ヘクタールを開墾してぶどう畑を作った事に始まったと学園のあゆみに記載されていました。

(生天目)



最初に開墾したぶどう畑

笠間支所

にぎやかな
餅つき会

まなだけ会（上加賀田地区社協）の寄り合い・あいさつ運動部会の事業である餅つき体験学習が、1月9日に上加賀田公民館で実施され、子どもから高齢者まで約60人が集まり、にぎやかな餅つき会になりました。

当日は、お天気にも恵まれもち米をふかす人、臼で餅をつく人、出来た餅を丸める人



がんばる お父さんたち

などがおり、みんなでおいしく食べながら、参加者のそれぞれの会話に会場は和やかな雰囲気になっていました。その後、子どもたちは、白・紅色の餅を木の枝に付け、まゆ玉飾りを作りました。真剣な姿には、地区内の五穀豊穡や長寿健康の願いが込められていることと思われました。

このような行事を通じて、「伝統文化」「自然の豊かさ心の豊かさ」が受け継がれ、地区内の人たちの絆がより一層深まることにより、住み慣れた地域になることでしょう。

(事務局)



まゆ玉飾りを手に

善意の寄附を「ありがとう!!!」(善意銀行預託)

平成21年7月1日～平成21年9月30日まで(順不同・敬称略)

物 品

飯塚工業	使用済切手
株式会社コーエーデンキ笠間店	使用済切手
秀芳会笠間支部	使用済切手
小島 昭男	使用済切手
谷中 信也	使用済切手
関本 馨	使用済切手
大沢保育園	使用済切手 約280枚
渡辺りつ子	使用済切手 261枚 刺し子ふきん10枚
湊 節雄	使用済切手枚 書き損じはがき5枚
山口 松男	使用済切手 234枚
みなみ公民館	使用済切手 書き損じ葉書
笠間幼稚園PTA	使用済切手3391枚
	使用済テレカ11枚 書き損じ葉書7枚
青柳 時子	使用済切手 男性の下着 使用済テレ フォンカード 書き損じ葉書
笠間高等学校野球部	ブルタプル
ガールスカウト茨城県第30団	ブルタプル10.5キロ
下安居婦人防火クラブ	ブルタプル多数 ペットボトルキャップ
友部第二中学校JRC委員会	ブルタプル多数
斉藤まさ子・加藤さい子	ブルタプル多数 19kg 53kg
穴戸苑デイスサービス	ブルタプル ボトルキャップ多数
川澄真二郎 他 ボランティア有志	ボトルキャップ5000個
秋山 洋子	ペットボトルキャップ多数
橋本精密工業株	ペットボトルキャップ多数
不二製油株関東工場	ペットボトルキャップ
清水 詩子	ペットボトルキャップ多数 ブルタプル多数 はがき30枚
佐野 テル	紙おむつ
小沼 光夫	紙おむつ 尿とりパッド多数 歩行車2台
社会福祉法人	カードラジオ300個 メモ帳150冊
自立奉仕会 茨城福祉工場	ドリンクフォルダー300個
姫殿会	ゴミ箱
㈱イデック電設	古切手・ブルタプル多数
大沢下長生会	タオル40枚 雑巾8枚
退職公務員連盟	
笠西支部友部地区	タオル220枚
茨城県退職公務員連盟	
笠西支部笠間分会	タオル140枚 手ぬぐい57枚

茨城県退職公務員連盟	
笠西支部笠間分会	未使用タオル211本
ありんこ	未使用はがき55枚
	未使用80円切手100枚
中山 好枝	砂糖5kg
上野幸夫	鍵付ロッカー3点 テーブル大1点
山田 こう	アルミ缶 プルタブ
	ペットボトルキャップ
岡村 浩	かぼちゃ8個
富田栄子	きゅうり多数
匿名	使用済切手730枚 テレカ7枚
	その他カード4枚
匿名	使用済切手
匿名	未使用葉書100枚
匿名	玄米30kg
匿名	紙おむつ3袋
匿名	ランドセル
匿名	ペットボトルキャップ多数

金 銭

笠間稲荷門前通り おかみさん会	5,350円
笠間高等学校美術科	10,000円
笠間根っこ会	14,398円
環境チケット支援金	5,850円
臼木組	13,005円
大沢下長生会	4,735円
柏井野球クラブ	3,000円
北川根支部	5,000円
野口 貢	250,000円
サマーフェスタ実行委員会	50,000円
笠間市チャリティーゴルフ大会実行委員会	161,686円
コロナの会	17,100円
片岡節男	20,000円
常井 鞠代	1,822円
(財) 台気会茨城支部道場	50,000円
匿名 6件	16,009円

いこいの家「はなさか」の食堂が新しくなりました

いこいの家「はなさか」をご利用いただきありがとうございます。

4月より食堂経営者が代わり、各種飲み物・一品料理・麺類・定食を豊富にそろえましたので、ご来店をお待ちしております。

いこいの家「はなさか」の食堂が新しくなりました

編集後記

本年度の支部社協活動研究集会では、北川根支部・大原支部ともに「地域づくり」をテーマに発表されました。地域内の様々なコミュニティが持つ「興味と関心」について、情報を交換し合い「共通の興味と関心」に発展させていくことが「支えあえる地域づくり」になるのではないのでしょうか。こうした研究集会が、笠間支所・岩間支所でも開催されることが望まれます。(皆塚)

訂正とおわび

社協だよりNo.10の2～3ページ第59回茨城県社会福祉大会の紙面の中で掲載もれがありました。お詫びを申し上げますとともに、掲載させていただきます。

◇ボランティア

・原田 衛(かさまグリーンハウスボランティア)

・安藤 鎭子(かさまグリーンハウスボランティア)

訂正とおわび

北山公園休憩施設内に、平成8年5月北山休憩施設利用者の利便、身体障害のある方々の自立及び社会参加を図るため、福祉の店「北山ふれあい売店」を設置し皆様のご愛顧をいただいて今日まで営業を続けて参りましたが、諸般の事情により本年1月31日をもちまして閉店いたしました。

皆様の長年にわたるご愛顧に
心から感謝いたします。